

実践学校教育講座の院生・学生がフィンランドのユバスキュラ大学・小学校で「海外教育実習」実施

第二部実践学校教育講座（天王寺キャンパス）の院生および学部生による海外教育実習プロジェクトチーム 12 人（岩本哲也代表）が、教員 2 名とともに 11 月 25 日から 12 月 8 日までの 14 日間、フィンランドのユバスキュラ大学と小学校、オーボアカデミー大学附属実習校、スウェーデンのキューラビック基礎学校を授業訪問しました。

実践学校教育講座では、FT 院生率いる海外教育実習を行っており、北欧は 3 回目の実施となります。教員は柏木賀津子教授（CLIL 指導）、宍戸隆之准教授（体育・日本文化指導）が参加しました。

本プロジェクトは、前期履修科目である『学習開発研究演習』（大学院）および『小学校英語教育』（学部）の修了者から応募し、面接を通過した異学年メンバーで構成されており、CLIL（内容言語統合型学習）の理論を応用し、主に理数等の授業を英語で発信する取り組みです。4 か月間の取り組みの成果として海外教育実習を行い、参加者の「異文化リテラシー」「教える英語力」にも寄与するプログラムとして、独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）より 4 年連続で奨学金を受けています。また、種村雅子准教授（物理指導）をはじめとし、実践学校教育講座の各専門分野の教員の協働によって支えられ、HATO プロジェクトの取組としても引き継がれています。

ユバスキュラ大学は、修士・博士教育を英語で行うフィンランド最大規模の教育学部を備えています。CLIL 研究の第一人者、Tarja Nikula 教授から、ユバスキュラ大学の言語センターの外国語プログラムと、CLIL の談話分析方法を学びました。また、柏木賀津子教授が、大阪教育大学での CLIL を活用した『海外教育実習』の成果についてプレゼンを行い、EU における Con CLIL プロジェクトとの双方向連携を提案すると共に、物理専攻と英語専攻の院生が、「Soap Film・表面張力」と「Capacitor・コンデンサーのしくみ」について実験を披露しました。オーボ・アカデミー大学附属実習校では本学に今夏に招聘された Gun Jakobsson 校長のご指導のもと、全教科の授業を観察しました。各学校で、メンバーが行った CLIL 活用の授業（表面張力・コンデンサー・日本文化ソーラン節・「もったいない」は地球を救う・対称図形と家紋）は、どれも北欧の子どもたちにとって魅力的な展開となり、授業の後には担任からフィードバックを得て、合計 8 回の充実した教育実習を終えました。フィンランドでは 2016 年改正の新カリキュラムが世界の注目を集めています。中でも「学校は、常に社会の動向と変化に敏感に対応し、授業を変革する自立した教師により変革され得る」とされる理念は、本プロジェクトメンバーの CLIL 実践においても共通であると感じました。「科学的思考」「数学的思考」「環境」「創造」「コミュニティとの関わり」といった要素はどの国でも 21 世紀を担う子どもたちを育てるために重要であることを学び合いました。

フィンランドとスウェーデンの教育と海外教育実習の成果を広く知ってもらうため、12 月 20 日（土）の午後 3 時から午後 5 時半、天王寺キャンパス 416 講義室でビデオ紹介を含む報告会を行います。多くの方のご参加をお待ちしております。

